

《Seiry's Global Commons: An Uncommon Experience》

縁を大切に

藤田 優花[†]

縁の大切さ, と言われるとばかばかしいこと
いうなよ, とかそんなこと当たり前じゃん, 等
と思う人が大多数なのではないだろうか。だ
が, 敢えてこの場をお借りして私が大学生活
のおよそ半年間を通して得られた3つの縁につ
いて, そしてその大切さについて述べたい。と
いうのも, 他の年代と比べても出会いや変化の
著しい大学生活の始めだからこそ, 私は縁とい
うもののかげがえのなさを思い知ることができ
たからだ。

1つ目は, ベトナムでの武者修行というプ
ロジェクトを通して得られた「武者メンバー」
達との縁だ。私は武者修行プロジェクトに参加
したわけではなく, 学校で行われた説明会に参加
し, その後直接メンバーの方にお話を伺っ
ただけだが, そこから武者メンバー達との縁が
生まれた。武者修行に参加した人達は殆どが大
学生ではあるが, 全国各地から参加し, 年齢も
専攻している分野も違えば, 強みや弱みも大き
く異なっていた。このように自分と異なる点を
多く持つ彼らから学ぶことはとても多いため,
今では武者修行というプロジェクトを介して縁
にひどく感謝している。

2つ目は, 夏休みにドイツで行ったボラン
ティア活動を通して得られたボランティアメン
バー達との縁だ。ボランティア活動はたった
の2週間に過ぎなかった。しかしワークキャ
ンプ方式のステイによって, 日本ではできない
程の深い話が可能になった。ボランティアメ

ンバーの9割程がヨーロッパ出身だったため,
生い立ちや考え方は日本人のそれらとは全く異
なるものであった。そのため, 会話を通して一
般的な日本人の考え方と比較しながら思考する
ことが可能になった。また, 彼らも日本人の考
え方や日本について興味があったため, 多大な
意見交換の場を持つこともできた。

最後に, 私が現在通っている金沢星稜大学の
学生と教員達との縁だ。これらの縁は言わずも
がな, 約半年間の学校生活で得られたわけだ
が, 今まで私が通ってきた学校では思いもつか
ないような考え方の多様性や新たな知識を与え
てくれた。高校では得られなかった高度な知識
が授業で得られることは言うまでもないが, 更
に大いに高度で私にとってひどく新鮮な知識も
授業以外の時間に彼らから吸収することができ
た。

以上3つの縁について述べたが, それらに
共通して言える事は, 今でも作用が続いている
ということだ。つまり, 現在も彼らと連絡を取
り合ったり, 会ったりすることは勿論, 彼らの
ツテを借りた新たな人脈の形成も可能だとい
うことだ。1つ目の武者メンバーとの縁を例に
して挙げるならば, 私は最近新たに他のプロジェ
クトに参加をしており, そのきっかけは, 何と
いっても大変お世話になっている武者メンバ
ーの1人からの紹介だった。日を遡ると, 幾つ
かの他のイベントにも彼らのツテを辿った紹介
で参加しており, どのイベント・プロジェクト

[†] Faculty of Humanities, Kanazawa Seiry University

も共通して彼らと知り合っていなければ参加しなかっただろうし、抑も数多く存在するそれらの中から見つけ出すこともなかったに違いない。

結論として、これらの縁は今の私の成長にとって、将来においても大きな影響を与えるに違いなく、そのためにもそれぞれの縁を今後繋げて、更に広げていきたい。また、問答無用で大切にしていける縁であると考えている。その中の1つ、国際的に広がる縁となったドイツでのボランティアメンバー達との今後について述べたい。2019年の1月末から、私はアイル

ランドへ4カ月強の留学をさせていただく事になったのだが、現在将来の仕事として私は教育者を目指しているので、ボランティアメンバーの出身地を週末やテスト期間に訪問し、現地の学校制度について学びたいと考えている。そのような経験も各地に仲の良い知人がいない限りただの絵に描いた餅にすぎない。しかしながら、ドイツで生まれた縁によって、ヨーロッパでのそのような貴重な経験ができるかもしれないと想像できる程、現実味のあるものになった。最後になるが、今後も現在までに生まれた様々な縁に感謝し、新たに紡いでいきたい。